

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201645		
法人名	有限会社グループホームすだお		
事業所名	グループホームすだお		
所在地	佐世保市須田尾町18番1号		
自己評価作成日	令和7年10月20日	評価結果市町村受理日	令和7年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和7年11月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で、利用者本位の安全で快適な居住空間を提供致します 特に入居者の方の楽しみである、食事内容の充実には力を入れています 医療体制は、嘱託医による隔週の往診をお願いしており、夜間などの緊急時への対応や、状態の変化にも対応をしていますので安心してご利用頂けます 又日常の健康管理に関しても、看護師の配置により充実を図っています 入居に際しての、権利金、保証金、敷金、などはありません。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、小高い丘の住宅地に建ち、2階のベランダからは港やフェリーが行き交う風景が臨まれ、開放感がある。開設当初から「食事が入居者の一番の楽しみである」との代表者の思いを受けて、調理職員を配し、味やバランス、彩りも良く、器が家庭的であることは特筆すべきである。また、これまでも看取り支援を行っているが、今年度、代表者が医師に変わり、医療連携体制、看取り介護の体制を更に強化している。また、居室内のトイレ、洗面所の設置は、排泄の自立とプライバシーの保護にも繋がっている。理念である“支えあい、共に過ごす喜び、明るく楽しく、笑い声の絶えないホーム”を目指し、管理者と職員は入居者と笑顔で接しており、その人らしい穏やかな暮らしの支援に取り組んでいるホームである。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をみんなが目につくところに掲示し、共有しながら利用者の思いや要望をできる限り実現できるように務めている。	ホームの理念に“入居者第一主義に徹すること”とあり、管理者と職員は入居者に寄り添い、その人らしく暮らせる支援に努めている。笑顔での接遇は、入居者の穏やかな表情に繋がっている。理念を玄関、事務所など目につく場所に掲示し、共有しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板を回したり、児童センターからは手作りのプレゼントをいただいたりしている。	町内会の回覧板や地区の役員、民生委員、包括支援センター職員などから地域の情報を得ており、近隣住民と挨拶を交わしている。児童センターから今年度はタオルで作ったぬいぐるみのプレゼントがある。中学生の体験学習は、希望があれば受け入れる体制がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々には当施設の存在は理解してもらっているが認知症のことなど伝えきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はインフルエンザの影響で開催できなかった回があった。出席者からの意見を聞き良いサービス提供ができるように務めている。	年6回の開催であるが、今年度はインフルエンザ罹患のため、5回の開催となっている。ホームの状況や取り組み、ヒヤリハットなどの報告、参加者の質疑応答などある。今年度、委員の意見を反映し、パン食を提供している。議事録は、詳細で充実しているものの、参加した家族代表以外が会議内容を知ることが難しい。	運営推進会議の貴重な意見や質疑応答などを記載した議事録の開示は、更なる家族の理解や協力を繋がると思われる。家族等に会議内容を知らせる取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請や手続き上の相談がほとんどとなっている。	市担当課との連絡は、メール、FAX、郵送などが主であり、介護保険の申請、更新等は窓口に出向している。現在は市主催の研修は、リモートやオンラインではなく対面形式となっており、職員が参加している。また、包括支援センターとは連絡を取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開き、研修は年2回行っている。玄関の施錠は夜間のみ防犯の為行っている。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備し年4回委員会を開き、研修は年2回実施している。研修後は全職員が感想文を提出し、理解を深めている。玄関の施錠も夜間のみで、防犯カメラで安全確認を行っている。言葉による制止にも注意し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部の虐待防止の研修に参加し、内容を他の職員に伝えたり、事業所内でも研修を行い、虐待防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人制度の研修を受け、今年は保佐人がついておられる利用者を受け入れた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に従い十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会で来訪したり、電話があったときには意見を聞くようにしている。また、利用者からは日常生活の中で聞き取るようにしている。入居者の状態などは2ヶ月に1回の近況報告書を送っている。	現在、消毒と検温を条件に、居室での面会が可能である。家族の訪問も多く、要望は、その都度聞き取っている。ホーム便りはないものの、2ヶ月に1回の頻度で、入居者一人ひとりの暮らしぶりを記載した近況報告書を担当者が作成し、家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護職員としても勤務しており、業務の中で意見などを聞いている。また月1回の会議の中でも意見を聞く機会を設けている。	職員は、月1回の会議で意見を述べたり、業務上の気づきや改善提案は、申し送りノートに記載し、全員で共有化を図っている。シフトの変更等の要望は、管理者が柔軟に対応している。医師である代表者には、訪問診療の際に要望を伝えており、備品の購入も管理者を通じて、代表に伝え実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や休みの希望をできる限り聞いて働きやすい職場になっている。また職務内容によって処遇改善も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列施設全体での研修会を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回GH連絡協議会ブロック会議に参加し、情報交換やアドバイスをしあったり、3ヶ月に1回のGH連絡協議会中部ブロック研修会に参加し、サービスの向上に務めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所後の面談にて本人の希望や不安なことをヒアリングし、そこから環境作りを始め、安心して楽しく生活が出来るように、職員一同で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様も含めた、ご家族の要望を聞き介護サービスの内容を説明、理解していただき、本人と共に安心して生活できるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在治療中やこれから必要になりそうな他科の受診も含め入所前に医療機関からいただいたサマリー等、参考に迅速に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に置ける作業等手伝ってもらい「ありがとうございました。」と感謝を述べ協力体制を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	インフルエンザや新型コロナなどには細心の注意を払いながら、積極的に面談、外出を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望をご家族に伝え、家族との外出等、できる限り実現できるよう支援に努めている。	入居する際に生活歴を聞き取り、職員間で共有を図っている。不明な点は、再度家族に尋ね、新たに知り得た情報はアセスメントシートに書き加え、定期的に更新している。現在、面会は居室で可能であり、家族の訪問も多い。長く会えなかった親族に会いたいという希望が叶った事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合う方を同じ食卓にして、穏やかに過ごせるように支援している。また状態の変化により上手くコミュニケーションが取れなくなることもあるためトラブルにならないように席を変えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ移られた後は、面会には行けていない。お亡くなりになられた場合はお通夜などに出席させてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、思いや希望を聞いたり、会話が困難な方は表情や動作などで気持ちを汲み取るように務めている。	職員は、入居者の言葉を決して否定しないことを大切にしている。発語が困難な場合は、表情の変化を見逃さず、職員が複数の選択肢を提示している。帰宅願望のある入居者には、一人ひとりに寄り添って本人の思いを傾聴している。入居者の食べたい物を保佐人が他県から届けに来た事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人、家族とのアセスメントや関係機関からの情報で生活習慣を把握し入所後も生活や、家族からの情報を職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に記録し毎朝の申し送りで一人ひとりの日々の過ごし方、心身の状態の把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りで職員と話し合いをし、医療機関や家族と連携をとり月1回のケアカンファレンスでモニタリングを行っている。	職員は、入居者2名の担当制で、申し送りや毎月のカンファレンスやモニタリングを行い現状に即したプランを作成している。長期12ヶ月、短期6ヶ月の目標があり、入退院後や変化があれば迅速に見直している。生活日誌にサービス内容を番号で記し、プランとの連動を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づいたことを介護日誌に記録し、毎朝のミーティングで対応を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者それぞれの要望に対して、ご家族と連携を図り、出来るだけ要望に沿えるように対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員や地域包括支援センターの方と情報交換を行っている。また中学生の体験学習を受け入れたり、児童センターとの交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご家族の意向に沿いかかりつけ医がホームの協力医療機関にするかを決定している。眼科、歯科等受診は本人の意向に沿い職員や家族が付き添っている。	入居前からのかかりつけ医であり、全員ホームの協力医療機関が主治医である。月2回の訪問診療と、必要に応じ歯科は往診がある。他科目の受診は家族対応であり、場合によっては職員が付き添うこともある。受診結果は互いに報告し共有している。夜間急変時も医療連携体制で適切な受診となるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入浴時身体チェック表を記入したり日々の中での気づきを看護師に報告している。看護師は主治医に連絡を行い、指示を職員に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室スタッフや病棟看護師と情報交換を行い入退院時の対応を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今回医療機関の系列となったことで、看取りについて見直し、ご家族からも同意を得て系列施設全体で支えていけるように取り組んでいる。	重度化した場合の指針についての説明と同意書と確認書があり、入居時に同意を得ている。重度化の段階を踏んで医師が説明し、支援しており毎年看取りの事例がある。看取りに際しては、家族が最期まで付き添えるよう配慮している。今年度、代表者が医師へ変わり、更に看取りについて本人、家族、職員の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っている。主治医に指示をもらい看護師と連携を図り処置をしている。病院受診があれば職員やご家族が付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を行っている。非常持ち出し袋を整備、非常食を備蓄し、更に停電時に備えポータブル電源も備えている。	年2回、昼夜想定で避難訓練を行い、1回は消防署立会いである。自然災害対策はBCPに基づき机上訓練で大雨時は垂直移動を決め、空室確認は表札を外している。飲料水、米など備蓄品があり、緊急持ち出し書類はUSB保存である。緊急通報装置に隣人を登録するなど協力体制がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は苗字で呼んだり、訪室時ドアの開閉等には必ず声掛けを行っている。利用者の中には耳の聞こえが悪い方や視力が悪い方もおられるので、話しかけるスピード、声の大きさ等利用者に合わせて対応している。	職員は、入社時に守秘義務の誓約書を提出している。介護記録は、外部から見えない棚に保管している。入居者の呼び方は、苗字にさん付としている。リビングから自室トイレへ誘導する際は、職員は、羞恥心に配慮した声掛けを心がけている。ただし、夜間のみ使用するポータブルトイレが昼間もそのままの状態で見えている。	夜間のみ使用するポータブルトイレについて、入居者の羞恥心に配慮して昼間の収納方法に工夫が待たれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をしていく中で本人の意向を聞いたり選んでもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとり性格もそれぞれ違い、生活リズム、ペースもそれぞれに合わせて支援を行っているが、職員の数も限られており全てが本人の希望通りにはならないこともあるので、声をかけながら対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型の乱れには気を遣っている。定期的に理美容師に訪問してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは、特定の人ばかりになるようになって不公平感が現れ、一緒に行っていない。朝食は週に1回程パン食を提供したり、行事があるときは行事食を提供している。	調理専門職を配し、3食手作りの食事を提供している。食事前には、キッチンから調理の匂いが漂ってくる。食器にも気を配り、家庭にいるような温かい雰囲気である。運営推進会議での提案を受けて、パン食も取り入れている。行事食では、茶碗蒸しや刺身等、おやつには、手作りのどら焼き等バラエティに富んだメニューである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、健康維持に気を付けている。水分補給は10時と15時のおやつの時、レクリエーションを行った後に行っている。また夜間に水分補給出来るように居室に水分を置いている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがい、口腔用スポンジによるケアと利用者それぞれの能力にそって、声掛け、及び介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人らしさを尊重し生活のリズムに合った時間とやり方、安心できる環境の中で排泄できるよう支援している。	居室にトイレと洗面所を設置しており、プライバシーに配慮した排泄の支援ができる環境である。入居者一人ひとりの排泄の状態は、布の下着からリハビリパンツまで多様である。病院に入院していた入居者がおむつからリハビリパンツへ改善した事例があり、職員は自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の特性と状態を考慮した飲食物の提供を行い、併せて排便を促すような体操への参加を呼びかけ、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は人員の都合で週2回になっている。夏場も浴槽に入りたいという方もいる為、各々の沿った入浴方法を支援している。	現在、週2回の入浴支援を行っている。その他、汗をかいたり、体調不良な場合はホットタオルで清拭を行っている。同性介助を原則としており、現在は入浴を拒否する入居者はいない。入浴後は、保湿剤により乾燥を防ぐなど、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人らしさと希望を尊重し、昼間もベッド臥床や居室で過ごされる時間をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をファイルにまとめ分からないときは、すぐに確認できるようにしている。利用者各々に合わせた服薬の援助を行い、誤薬防止のため服薬前には他の職員に確認してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力を生かせるような役割をできる範囲で行っていただき、個性と希望を配合したレクリエーションを全体または個別に行っている。またご家族と連携を図り好きなものを摂取してもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と買い物や外泊や髪カット等ご家族の協力のもと支援している。	天気の良い日は、外気浴をして、眼下に広がる港の景色を眺め気分転換を図っている。ホームに車輻がないため、皆で外出することはできないものの、家族の訪問の頻度が多く、入居者は、家族と共に、美容室や買い物、外食へ出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は本人が金銭の管理を行っている方はいないが、能力に応じてご家族と買い物に行かれるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけることができる方には自由に電話をかけたりされる。自分でかけることができない方は職員がかけてあげたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、加湿器、空気清浄機を適宜使用している。季節を感じられる飾りつけをしたり、窓から花やクルーズ船が見える時には話題を提供している。	見晴らしの良い2階のリビングは、カーテンで光を調節し、入居者が計算ドリルやテレビで歌番組の鑑賞など自由に好きな場所で過ごす様子が窺える。キッチンから調理の匂いが漂い家庭的である。掃除や換気も行き届き、清潔である。ただし、脱衣所に洗剤、漂白剤などが入居者の手が届く場所に置いてある。	入居者の安全を守るため、目の高さ、手の届く場所に置いている漂白剤などは、目につかない、手が届かないような保管方法の工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う方、気の合った方々でテーブル分けをしたり、ソファや椅子の並べ方を工夫してくつろいでもらったり、一人で座れる居場所も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好きなキャラクターなど、好まれるものを飾ったり、テレビ、ラジカセなどを持ち込み、部屋で自由に過ごしていただく様配慮している。	居室にトイレ、洗面所、クローゼットを設置している。自宅から持参した位牌、ラジオ、時計、家族の写真、花籠、カレンダーなど馴染みの物品を配置している。掃除や換気は、職員が定期的に行っており、清潔で臭気もない。一人でラジオを聞いたり、自由に寛ぎ居心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過活動膀胱で、足の運びの悪い方に、転倒防止のため、夜間のみポータブルトイレを使用してもらっている。		